

氏名	曾 田 益 弘
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 684 号
学位授与の日付	昭和50年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	術後における完全静脈栄養の実験的研究
論文審査委員	教授 田 中 早 苗 教授 小坂二度見 教授 西 本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

完全静脈栄養 (T P N) を術後に使用して、その安全限界、有効性および臓器への影響を幼若ラットで検討した。

術後の T P N は、1 日の栄養必要量の 50% から漸増する方法が安全限界と考えられた。術後 2 週間の体重増加は、単開腹・T P N 群が 5 5. 6 g、小腸バイパス・T P N 群が 42. 6 g であり、T P N によって術後の体重増加が可能であった。窒素出納の上でも、術後早期より正の出納となり、2 週間では、単開腹術後 1. 6 5 g および小腸バイパス術後 1. 3 1 g の窒素蓄積を示し、術後にみられる異化反応を軽減することが T P N によって可能であった。T P N 群では、脾臓の腫大が著明で、T P N が網内皮系に負荷を与えることが示された。小腸は T P N によって萎縮したが、食物通過欠如が原因と考えられた。肝臓および脾臓に脂肪沈着がみられたが、脂肪乳剤注入によるものと考えられた。腎臓の尿細管上皮腫脹がみられたが、高張糖液の持続注入によるものと推察され、術後の T P N の使用には注意が必要である。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は術後における完全静脈栄養に関する実験的研究であって、従来、理想的な投与法ならびにその安全限界については十分に究明されていなかったが、本研究はそうした点を明らかにしたことにおいて価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。